

光円寺報

2011年 5月

〒679-2323 兵庫県神崎郡

市川町甘地 384

後藤明照、由美子(惟蓮)

T&F 0790-26-0162

メール kouenji_dayo

@nifty.com

<http://kouenji-hou.com/>

通信費年間1000円



Isinomaki(Maeda Shivuki)

あれは瓦礫じゃない。私の家なんです…。

同朋ネットメールニュースより

被災者の声

仏教徒宣言(その八十九)

三月十一日の東日本大震災は、地震・津波・という二つの天災と、原子力発電所の事故という人災により、未曾有の歴史的な甚大な被害を及ぼしています。そして、今日でちょうど二カ月が過ぎました。あの日から今日・現在までに亡くなられた人の数は一四九四九人になり、行方不明の人がまだ九八八〇人(毎日新聞)も居られます。そんな中、毎日どこかで亡くなられた方が発見されたり、身元確認がなされているようです。様々な立場の人が懸命に捜索活動をされる中、一日も早く行方不明の人が見つかり、家族や身内の人の元に帰れるように、又、被災された人が悲しみの中から歩み出せるよう願うばかりです。

被災地は地域によつて被害の大小があり、復興の話が出ている地域もあるようですが、先日、テレビで南相馬市の桜井市長が話されていましたが「復興といつても、福島原発から放出されている放射性物質が終息していかないのに、その話よりももっとしなければならぬ事が有るでしょう。」と発言されていたのが印象的でした。桜井市長が言われるように、福又、使用済み燃料が冷温停止状態になるまでは程遠く、あちこちから漏れている放射性物質が危機を脱していないことを明かしています。放射性物質は日々、環境に放出され続けているのです。何時まで私たちの生活は、目に見えない放射能に曝されることを余儀なくされるのでしょうか。その上、政府や、マスメディアから流れてくる情報は放射線の人体や環境への影響は、専門家と呼ばれる人によつてまちまちで、はつきりと提示されずに不安や戸惑いを抱えたまま被害者である私たち住民は、右往左往させられています。

そもそも、専門家といわれる人は、ある特定の事を学び精通したエキスパートで、その専門知識を公開し、人々の知らしめ、導いて行く、働きをする特別な人のことではないのでしょうか。その専門家を「良心の専門家」と「邪心の専門家」に分けることが出来るのではないのでしょうか。そして、今回の事故以降、マスメディアに原子炉・放射線物質・放射線医療・設計・建設・・・等、様々な分野の専門家が登場し、その立場から意見を言われています。が、今、メディアに出て意見を言っている殆どどの専門家は、悲しいかな、邪心というか、名誉・名声・権威の側に立っている人たちではないかと思ってしまう程、政府側・電力会社寄りの発言が多く見受けられるのは、私だけでしょうか。そもそも、テレビに出演するというのは、ギャラを貰うという事で、主従関係が其処に発生すると、必然的にスポンサー・テレビ局側に沿った発言を求められたり、初めからそのような意見を持っている人に出演を依頼するのは、ある意味当たり前なのでしょう。

しかし、先日、小佐古敏荘（こさことしそう）・東京大教授（放射線安全学）が福島県内の小中学校などの屋外活動を制限する「年間20ミリシーベルト」の基準に異論を唱えて内閣官房参与を辞任されました。この小佐古さんに働いたのを「良心」と呼ぶのでしょうか。それと、その専門家の意見を聞いている「素人」の私たちの側の問題もあります。「良心の素人」と「邪心の素人」です。有名大学の教授の言っていることなら間違いない。とか、某NHKのニュースで流れているから本当だろう。と鵜呑みにし、疑わない。そんな自分が有りませんか。そんな私に働きかける何かが有りませんか。

南無阿弥陀仏

釈明照

光円寺年間行事

春季・永代経会

六月五日（日）

秋季・永代経会

十月十六日（日）か二十三日（日）

門徒親睦旅行

十一月二十日（日）

報恩講

十二月三日（土）〜四日（日）

帰敬式（おかみそり）

十二月四日（日）

事前学習会・十月・十一月に予定

二〇一一年全戦没者追弔法会報告

表百

謹んで、阿弥陀如来、宗祖親鸞聖人、ならびに三世十方の諸仏如来に、もうしあげます。

本日ここに、有縁の同朋あいつどい、アジア民族の解放と、大東亜共栄圏の建設のための『聖戦』という大義名分のもとに、周辺諸国の人びとの、生活の場を踏みじり、耐えがたき惨禍をもたらした罪過を懺悔するとともに、戦禍に倒れられた全ての人びとの、いたみと悲しみを憶念しつつ、全戦没者追弔法会を厳修いたします。

私たちは念仏者として、あらためて先の悲惨な戦争を、教えの中で省みますとき、私どものこのころの奥底に渦巻く煩惱の闇にまなこを閉じていたことが、全ての過ちの根源であったことを、教えられるのであります。それを宗祖親鸞聖人は、自我に立つ善は雑毒の善であると仰せられています。その教えの言葉を忘れ、顛倒してきたのです。

私どもは、いまここに立って、仏の本願の教えに背いた罪、

世界各国、とりわけアジア諸国の人びとに、計り知れない苦痛と悲しみを強いてきた数々の罪、それらの罪を背負いながら、懺悔の道を歩む以外にありません。

私たちに、いよいよ求められているのは、時代の本質を見抜く、智慧のまなこであり、再び過ちを繰り返さないという決意であります。

このたびの大震災や原子力発電所の事故による放射能被害のもつ本質も、このまなこをもって、問い続けてまいりたいと思います。

私たちはいま、ひとえに、仏の教えに随い、仏の意に随い、仏の願いに随って、自己の煩惱の闇を、教えの光に照らされつつ、ともに生きあえる世界への道を歩まんことを、ここに誓うものであります。

二〇一一年四月一六日

浄如（門主）

戦争の世紀を超えて

かんさんじゅん
姜尚中

二十世紀は、大量殺戮と空前の豊かさが同居した「極端な時代」でした。人びとは、人格や個性の尊重、科学技術の進歩や未来社会



のユートピアを夢見ながら、他方では身の毛もよだつような戦争や虐殺に膨大な資源とエネルギーを費やすことになったのです。二十世紀の前半、第一次大戦、第二次大戦だけでも、数えきれないほど

の人びとが悲惨な死を迎えましたし、また悲しい記憶を抱えて生きるをえませんでした。とくにアウシュビッツやヒロシマ（ナガサキ）に象徴される大量殺戮、さらに南京やカチンの森などでの集団虐殺など、人間の中に巣くう「悪」のおぞましさに戦慄せざるをえません。

人類は、なぜこれらの、怒髪天を衝くような悪行の限りを尽くすことになったのでしょうか。わたしは三つの点があげられると思います。そのひとつは、科学技術が人間の道徳的な直感や感性から切り離され、やがて大量殺戮のために最大限の効力を発揮するようになったことがあげられます。数千メートルの上空からボタン一つで爆弾や原爆を投下するパイロットに、地上で展開される地獄図を実感することができるでしょうか。そこには、人間に備わっているはずの、自然の一部としての人間の感性や想像力が欠けています。文明の利器は、そのような感性や想像力を凍結させ、人間を機械やコンピュータのシステムの一部に取り込んでいくことで、人殺しに伴う痛覚や良心の疼きを解消することになったのです。

第二にあげられるのは、人種や宗教、民族やイデオロギーの違いが、「友」と「敵」、「われわれ」と「やつら」という極限的な対立にまで純化され、全面的な相互否定の論理が人びとに憎しみや敵愾心を植え付けることになったことです。

人種主義、原理主義、ナショナリズム、教条主義など、様々な非寛容の妄想や想像が人びとを殺戮へと駆り立てることになりました。（つづく）